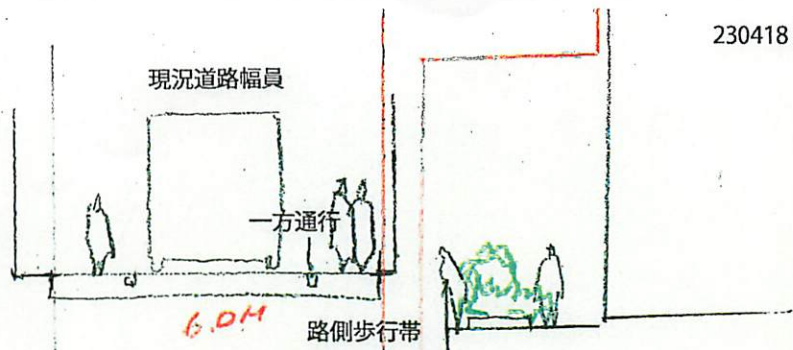


トリア通り 検討案
1-29 再開発時



1-29 再開発

○2.6m 幅の歩行者空間に植栽した場合
有効な歩行者通行幅が確保できない。
○現況道路の路側歩行帯部分、1.3m 程度を
歩行者空間を広げるように、その間に
段差がないよう仮復旧する。

○植栽は、将来の街路樹整備を視野に入れて
4m 程度のものを 2 本ずつ配置。
管理は楽になると考える。

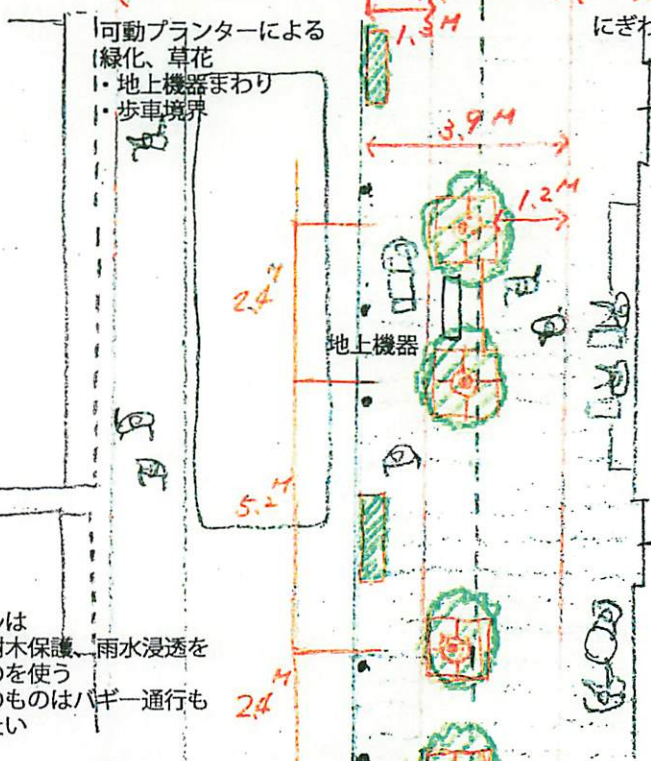
既存建築物

路側部分の暫定整備
架線地中化の復旧時に
歩行者空間と段差のない
歩道スペースに
AsCo 舗装でも良い

防風植栽
常緑樹が必要なら
・在来種ソヨゴ、モチノキなど
・近縁種常緑ヤマボウシなど
高さ 4.0-4.5m 程度で
管理しやすい植栽にする

三本立ち程度で枝透かしできて
見通しを妨げないもの
トレンチアプローチ部の
株立ちの植栽が参考になる

防風機能が期待できるか検討



にぎわい環境空間

将来の街路樹レイアウトを
考えて配植する
将来千鳥に街路樹が入れられる
配置としておく

1200 角のツリーサークルならば
左右に 1.2m 程度ずつ
有効な歩行空間

店舗の入り口位置も調整できると良い

ツリーサークルは
歩きやすさと樹木保護、雨水浸透を
両立できるものを使う
グレーチングのものは、バギー通行も
考慮して避けたい

○緑豊かな街路樹のある道路にしていく
 街路樹は落葉樹を含めて検討する
 まちかど、ゲートにはシンボル樹も検討
 ○1-29 再開発側では街路樹を千鳥に追加
 することで、有効な歩行空間幅を確保する

○歩行者天国、イベント時に道路全体を
 広場として使うことができるよう
 段差を極力なくし、歩車境界にも柵などを
 備けずに植栽、プランター、車止めに対応

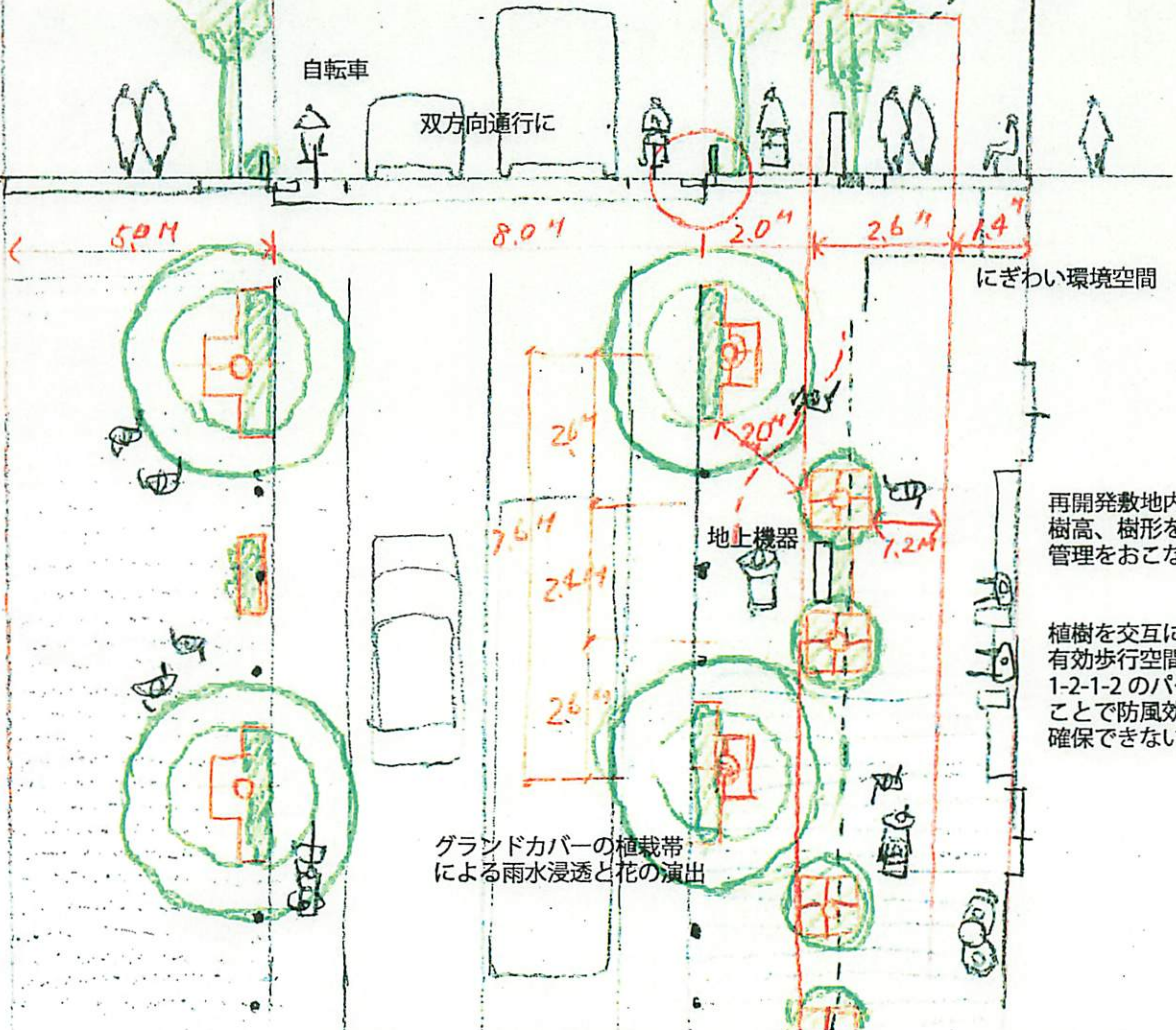
官民境界

15.0M

1/20 10/27
~ 11/29

西側の壁面や敷地内植栽は今後検討する

街路樹 将来樹形
 ・蜜源となるユリノキ など
 ・まちのイメージを高めるような見どころのある街路樹としたい



再開発敷地内では
 樹高、樹形を維持する
 管理をおこなう

植樹を交互にすることで
 有効歩行空間を確保
 1-2-1-2のパターンにする
 ことで防風効果も一定
 確保できないか

グランドカバーの植栽帯
 による雨水浸透と花の演出